

指定管理者による管理運営の実施状況報告

- 1 施設名：柳川古文書館
- 2 指定管理者名：柳川市
- 3 指定期間：平成31年4月1日～令和6年3月31日
- 4 施設設置目的：筑後地方に多く残る古文書等の収集、保存及び整理（展示）
- 5 管理運営についての点検結果（平成31年4月1日～令和2年3月31日）
 - (1)点検方法：事業報告書、現地確認、ヒアリング等をもとに指定管理者による管理運営の実施状況の点検を行った。
 - (2)点検結果：別添のとおり

①管理運営状況総括表

大項目	事業計画（取り組みや改善の内容等）	管理運営の概要
①公共性（公益性）の確保	・旧柳河藩領域に残る多数の古文書等を収集及び保存するとともに、県民に理解しやすいように調査及び整理を行い、公開する。	・古文書等史料の寄贈（8件）、寄託（2件）を受け、その他寄贈・購入により図書251冊を整備した。また、収集した史料の整理を柳川市史編さんと連携しながら進めるなど、古文書館設置の趣旨に基づき古文書史料の所在確認と収集活動を実施した。
②施設利用及びサービス向上	・郷土学習等、地域住民の生涯学習の場としても活用できるよう、古文書への関心を高め、読解力をつけるために、古文書講座を開催する。 ・観光地に立地していることを鑑み、地域住民のみならず観光客にも利用されるような活動を企画する。	・古文書講座を実施した（毎月1回の初級編・応用編、8・9月に計4回の入門編）。 ・企画展「柳川の紀行と実録」などの企画展・常設展などを実施し、地元に着した企画・展示を行った。 ・市内外での各種講座への講師を22回派遣した。 ・入館者数 4,497人（対前年度比：66.9%） ・高齢者や障がいのある人に対する配慮として展示パネルを見やすい位置に配置し、文字を大きく表示するなど取り組んでいる。
③経営（収支）改善	・報酬等、人件費の抑制に努める。 ・需用費の支出軽減に努める。	・委託料実績 10,940千円（対前年度比103.8%） ・給与等人件費22,488千円→21,347千円（△1,141千円、対前年度比：94.9%） ・需用費実績 2,080千円（△220千円、対前年度比：90.4%）
④職員確保方策及び健全な財政基盤	・館の運営に必要な専門的知識を有する職員の確保に努める。	・市の市史編さんを担当する学芸員を兼務とするなど、史料調査や閲覧及びレファレンス活動に支障がないようにしている。
⑤施設管理上の個別事項	・防火設備を充実させ、その保守点検を定期的に行うことで史料の保全に万全を期す。 ・書庫内の環境を整え、薬剤によらない文化財の管理を行い、除湿器の設置による適切な温湿度管理に努める。	・館の夜間、休館日の警備及び消防設備の保守点検業務は民間業者に委託し、万全の体制で史料を保存している。 ・史料管理に関し、燻蒸による殺虫殺卵を停止して薬剤だけに頼らない管理手法（総合的有害生物管理）を実施している。書庫内で常時トラップによる虫の捕捉調査を行って書庫内環境を調査するとともに、定期的に書庫内、書棚などの清掃を行った。新たに収蔵することとなった史料については、二酸化炭素での殺虫、及び本館である九州歴史資料館の燻蒸庫利用による殺虫で対処した。 ・安全対策・危機管理に関しては、機械警備（通年）、各設備の適宜の保守点検実施により適切に対応している。

②点検結果

<input type="checkbox"/> A+（提案内容を上回った） <input type="checkbox"/> A（提案内容をやや上回った） <input checked="" type="checkbox"/> B（概ね提案内容どおり） <input type="checkbox"/> C（提案内容をやや下回った） <input type="checkbox"/> D（提案内容を下回った）	【総合コメント】 古文書解読講座の実施や各種講座への講師派遣を行うとともに、視察、見学、博物館学実習生の受け入れを積極的に行うなど教育普及活動に努めている。 地域の特性を活かして「柳川の紀行と実録」等、地元に着した展示に工夫をしている。 各種レファレンスへの回答や諸史料の提供も多数行っており、専門性は高い。 例年は「柳川さげもんめぐり」期間中に「松井家・立石家のおひなさま」を展示するなど取り組んで多くの来館者を獲得していたが、当年度においては新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために臨時休館としたため、入館者数に大きな影響があった。
---	--